

専念寺通信

九月号 (NO. 145)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

厳しい残暑がつづいています。9月に入っても33度以上の日のある今年の暑さ、みなさま、おかわりなくお過ごしですか?『通信』9月号をお届けします。

☆秋の彼岸

9月19日から25日までが秋のお彼岸です。秋分の日を挟んでの1週間をいいます。秋分の日には昼の長さや夜の長さが同じになり、この日をさかいに、じょじょに夜が長くなっていきます。お中日(ちゅうにち)と呼ばれるこの日は、太陽は真東からのぼり、真西に沈みます。西方十萬億土の極楽浄土のあるこの方向に思いを馳せ、煩惱に満ちたこちら側から、安らぎと平穩に満ちた向こう側へ往生できますようにと祈る、そのような期間としてお彼岸の1週間をとらえることができます。また、六波羅蜜と呼ばれる6つの徳目を実行に移す、修養の期間ととらえることもできます。

六波羅蜜とは次の6つの徳目をいいます。

1. 布施(ふせ) 与えること。
2. 持戒(じかい) 戒律を守ること。
3. 忍辱(にんにく) 苦難に堪え忍ぶこと。
4. 精進(しょうじん) 真実の道をたゆまず実践すること。
5. 禅定(ぜんじょう) 精神を統一し安定させること。
6. 智慧(ちえ) 真実の智慧を得ること。

これらの徳目をすべて実行にうつすのはむずかしいかもしれませんが、お彼岸をきっかけに心にとめておくことはできます。

与えるのは、ものである必要はありません。あなたの知っていることを知らせる、困難に陥っている人に声をかけてみる、それも布施です。きょうできなかったことも、明日には試し、少しずつ積み上げていく。気持ちをぐらぐらさせず、落ち着いて考え、真実は何なのかをあきらめずにもとめていく、など、これらの徳目は現代でも十分に役にたつものです。私たちの国は、昨年の大震災のあと、経済的にも、また、国際的にも、きびしいできごとが続いています。こういう時こそ、ひとりひとりが出来ることを静かに実行しましょう。助けられる機会があったら迷わずに手を差し延べましょう。堪えるときには堪え、けれど、小さなことをきっかけにしても智慧を働かせ、自分で真実を探すこと決してあきらめずに続けましょう。

ちいさなお知らせ:長年勤めてきた専念寺のスタッフ、湧上が夫君の転勤で九州に行くため、9月はじめで退職致します。後任に湧上の妹、渡辺を新スタッフとしてむかえることになりました。ご挨拶をかねて、住職、スタッフ一同の写真を掲載させていただきます。季節の変わりめ、皆様ご自愛くださいませよう。平成24年9月1日

大黒

